

校長室だより

No. 2

平成30年4月13日(金)

強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

か とう よし かず
加 藤 嘉 一

自己の成長を自覚し新たな自分を創る子供を育成する ―そのための方略―

本年度第1回の職員会で、昨年までの学校経営方針、重点目標を見直し新たに作成したものを教職員に示しました。

(保護者・地域の皆さんにも、重点目標に対する具体的教育活動を加えて、今後お示ししたいと思います)子供たちにも本年度の重点目標に関わる話をしたいと思い、始業式・入学式(入学式では1年生向けの話し方)の式辞で話すことにしました。



【4月10日(火) 6-2算数 授業風景】

【1学期始業式 式辞の一部】

- 自分の体を鍛えようと、春休みにランニングをしていた子の話
自分で目標をもち、自分で自分を鍛える姿勢の尊さを見習いたい。
- 今年がんばってほしい3つのことの話
 - 1 あいさつを自分からたくさんの人に元気よくしましょう。【徳】
今年は、「おはようございます」「さようなら」「ありがとうございました」を自分からたくさん言って、自分を、たくさんの人を幸せな気持ちにしましょう。
―省略―
 - 2 授業で「アスリートの心」を鍛えましょう。【知】
―省略― アスリート(トップスポーツ選手)は、練習や試合が終わった後に、自分は何ができるようになっていたかな、どのくらいがんばれたかな、何を学んだかな、そして、次の試合や大会に向けて何をするとよいか、しっかり自分を見つめることができる人たちです。このアスリートのように、勉強も運動も行事も、しっかり「振り返られる心」を鍛えてほしいのです。これまで校長先生が話してきた、「博士の目」と「神様の耳」、これに「アスリートの心」ができるようになれば最強です。自分のことをしっかり振り返られる「アスリートの心」を鍛えましょう。
 - 3 去年の自分より少し多く運動をしましょう。【体】
健康な体づくりをしましょう。そのために、なわとび、かけ足などいろんな運動を、去年よりちょっと多くしましょう。 ―省略―

本校の今年のテーマは、「自己の成長を自覚し新たな自分を創る」ことです。そこで、今年度はこのテーマに迫るために、授業や行事における終わりの段階の「振り返り」という過程に着目し、研究したいと考えました。そして、式辞のなかでは、重点目標の「知」の部分で伝えることにしました。



わたしたちはよく授業の終わりの場面で、「今日の授業の振り返りを書きましょう」と言います。わたしはその場面で子供たち自身に「何を学んだのか」「自己の成長はどんなことだったのか」「次にどうしたいか」を自覚してほしいと考えています。1時間の授業だけでなく学びの節目にもです。そして、授業で

【4月10日(火) 6-1体育 授業風景】は、この終わりに向けた展開をどうするかを研究したいと考えています。子供にも、このことを1年意識してほしいと考え、「アスリートの心」をキーワードにすることにしました。

授業研究の場面では、子供の言葉や感想等の記録から、次のような視点等で分析したいと考えています。

- **子供は授業や行事等をどう感じていたか**

【「気付いたこと、思ったこと」から子供の見方や考え方、感じ方を、わたしたちが理解する(子供理解)】

- **子供は何を学んでいたか**

【子供が新たに得た知識・技能は何だったか、学び方の獲得はあったのか、新たな見方や考え方、感じ方は更新されたのか、自分の成長は自覚されているのかを分析し、わたしたちが授業をどう展開するとよいかを学ぶ】

- **子供は次にどんなことを学びたいと考えているのか**

【追究の意志と意欲はどのように生まれるかを学ぶ】

これは子供の学習評価の研究にもなりますが、教師にとってもかなり厳しい自身の授業の評価につながると思います。

今年は新学習指導要領実施前の移行期(今年より2年)初年度であり、できる部分から新学習指導要領に沿った教育活動を展開しなければなりません。新学習指導要領の目指す学びは「主体的・対話的で深い学び」です。本校は、その実現のために問題解決的な学びを機軸にし、授業研究してきました。この3年間は、「問題を見いだす」「見通し」「振り返り」の過程を授業に位置づけ、昨年は「子供の主体的な学びの姿」を探り、授業のあり方を議論しました。

これまでの研究を礎に、今年は「振り返り」の視点から「主体的・対話的で深い学び」を創造し、「新たな自分を創る子供」を育てたいと考えています。